1.そんなふうに人は生きる

そんなふうに人は生きる
驚愕の裏の真実と共に
石くずの中から光を取り出し
天に加護を求めながら

そんなふうに人は生きるけれど
我々の側からも
死にゆく現在から我らを別つ
未来を愛撫する事はできるのだ

そんなふうに人は生きる
それでも理性の耕す情熱と共に
そんなふうに人は生きるが
我らに残された力を
愛に変えることはできるのだ

そんなふうに人は生きる
あなたも知っているように
もう届かない光と共に
希望を節約しながら
天に救いを求めながら

そんなふうに人は生きるが
それでも我らの手で
人間の曲げてしまったものをまた伸ばし
失敗を償う値打ちはあるのだ

そんなふうに人は生きる
それでも理性の耕す情熱と共に
そんなふうに人は生きるが
我らに残された力を
愛に変えることはできるのだ

2.アクアマリン

海の水石、心無き
不死なる石は死ぬことなき
空の水、ジャスミンの水
あまりに遅くそれでも届き
それはまるで火薬のよう

川岸の水
陽気な眼の水
死に神の腐食版画、我が心
緑で黄で青い水
砕けて散った星の水
我が視線は君のもと
(なにを伝えること無く、言葉を遣う愉しさよ〕

3.あなたのために

あまい黄昏の潮の香に
あわいあなたの瞳想い
ひとりむなしく歩き続け
さまよう私の手に風がからまる

しろい石畳踏みしめて
ひろい並木に空を見上げ
やがて口ずさむひとふしは
通り過ぎた記憶を語るメロディ

ゆれる心は風にまかせ
もどる道ももはや忘れて
ひとりむなしく歩き続け
さまよう私の手に風がからまる

あまい責昏の潮の香に
あわいあなたの瞳想い
かたく目を閉じてかえりみる
あせた遠い日の熱いくちづけ

4.ダヴィッドのサックス

ダヴィッドはバーの止まり木を歩いてた
黄色い上着に緑のズボン

短編小説から抜け出した醜男のように
傾いた帽子とぴかぴか光るボタン、裸の魂と険のある顔
サックスの金管を吹きながら

ダヴィッドはバーの常連と話していた
やたらに饒舌に内容のないことを
支離滅裂なそのたわごとには知性も見えず
誰にも理解できるようなものではなかったが
それでもひとたびサックスを取れば
明快なメッセージがみんなに伝わったものだった

吹けよ、ダヴィッド、
俺達が探しにきたのは
失われた世界を引きずる流浪の宇宙
都市の風景、遠い遊星
皮肉な情熱、死に至る愛
見事に完結した魅惑の音色
お前のサックスの聖なる腹から生まれる

ダヴィッドはバーの手洗いでドラッグをやってた
紫色の腕に悲しげな目で
ひとたび笑ってみせれば遠い天使を亡くした子供のようだった
そしてサックスの魅惑の迷宮のなかで
眠る才能を強引に呼び出していたのだった

ダヴィッドはバーの止まり木を歩いてた
黄色い上着に緑のズボン
短編小説から抜け出した醜男のように
傾いた帽子とぴかぴか光るボタン
そして落雷に打たれたように不意に倒れた
サックスの割れた管を吹きながら

吹けよ、ダヴィッド、俺達が探しにきたのは
失われた世界を引きずる流浪の宇宙
都市の風景、遠い遊星
皮肉な情熱、死に至る愛
見事に完結した魅惑の音色
お前のサックスの聖なる腹から生まれる

5.少女と樹

ひとりの娘が樹の幹に
ほんの戯れに名を刻んだ
すると樹は心を掻き乱され

少女に花をひとつ落とした

私は心を乱された悲しい樹
おまえは私の幹を傷つけた娘
私は永久におまえの名を体に残す
だからおまえは我が哀れな愛を
語っておくれ

6.波の泡

浜に打ち寄せる波の泡のように
あなたは私のもとに来た
大海原のようなあなたの心が私
を襲い
雨の午後に私達は花開いた
長い散策のなかで
コーヒーの溢れるカップのなかで
人気のない公園のベンチで
シーツの静かな飛翔のなかで

波の泡、動く
砂と水、一瞬のはかなさ
生まれて消え、繰り返すことなく
なぜなら二度と、同じ波は来ず
浜辺はいつも違うのだから

空まで届く波は
永劫の一瞬の中で凍結した
私があなたのくちづけで火をつけ
夜明けを迎える日々でこねあげた
やさしさをかき回し
愛の糸取り棒で糸を縒りながら
輝く都市の空の上の
バルコニーで平安に過ごしていた

波の泡、動く...

ついには波は浜を洗い
泡は砂の下に散らされる
黄色くなった写真では
愛が与えた清らかな顔は消えた
詩も歌も
君の瞳の美しい輝きも
視線の煌めきの中の笑みも
飛び去ったあのときの祭りも

波の泡、動く.....

7.夜警

詩がひとつ、夜明け前に飛んだ
街の上を、恋をしながら
そして通りすがりに私の額にぶ
つかって
私の心に声を残した

小鳥は古代の夜の歌い手で、
自分の職務を慌ててすませる
車のうえには露のあと
亡霊のような通行人か通る

不寝番の灯、心を奪う
私を操る魅惑の影
私が想いを語る猫たち

この夜明けの孤独の中で
沈黙した光の堅固な王国
それは夢を見張るたったひとつ
の詩
それは夢を見張るたったひとつ
の詩

8.はっきりとは知らないけれど

はっきりとは知らないけれど、
私の思うに
女と男はいつか愛し合い
少しずつひとりぼっちになって
いく
心の中で、何かがひとりだと教え
大地のうえで互いに入り込み
お互いを消していく
すべては静寂の中で起こる
瞳の中で光が生まれるように
愛が躯を結び付け
静寂の中で、互いを満たしていく

そしてある目、腕の中で目覚め
そのとき、すべてを知ったと思
うのだ
互いに裸になり、すべてを知っ
たと

(はっきりとは知らないけれど、
そんな気がする)

9.カリート

都会のベンチにひとり座り
君の視線は海岸地方を想う
君の運命は引き裂かれようとした
半分の真実と半分の嘘に
貧しいものたちの希望のように

灰色の小雨のもとを一人歩き
自分の人生はここにあると堅く
言い聞かせる
どうして花が治める土地を
人の海と取り替えてしまったのか
ごらんよ、河も色美しくはない

カリート、君の悩みを解き放て
私のギターの弦の間で
君の涙をダイヤモンドに変えよう
カリート、君の石をお投げ
春のツグミのように飛んでいけ
るように

ブエノスアイレスでは新しい靴も
村の広場でほど光りはしない
君の小さな光に歌で内緒話をさせ
太陽がもうちょっと君を照らす
ことができるように

どんな種でもひとたび根付けば
暮れには同じ星を見たいもの
暗いところから逃げたと思えば
溝をさらうカモメの尖った嘴に
救われた

カリート、私は君の友達
君の巣作りの樹をあげよう
カリート、歌を解き放て
私のアコーデオンの蛇腹が
それを待っているのだから

10.鳥の歌

夜明けの光か満ち溢れ
祝福の言葉が
鳥たちは歌う
祝い事を告げるため

神の王国が来る

我らを救うため
旋律を歌いながら言う
イエス様がお生まれになった
我らの罪を赦し
慶びを与え賜う

11.わたし

わたしはおまえを試しにきた
得体の知れぬもの
嵐を生み出す原始の泉

この青い爪で
おまえの息を詰まらせる湿気を
燃やす
わたしは虎

その海の中に
おまえの水晶の宮殿を
魅惑のくちづけで封じる
わたしは狡猾なもの

わたしはおまえを試しにきた
得体の知れぬもの
嵐を生み出す原始の泉

おまえの果てなき愛の渇き
鏡の中の恐怖や
おまえの肌の稲妻を解き放つもの

12.ただあなたがいるだけで

あなたは絶え間ない軽快な風
気まぐれな微風の愛撫
あなたは夜の霧、流れ星、渇き
そして足早に通り過ぎる
あなたは遠い静寂、隠された苦罪
燃え上がる炎、時の光と薄闇
近づいてくる亡震、息をつく唇

あなたは雨、そして草の中で
通り過ぎる命、揺らぐ温もり
あなたは遠くを眺める視線
救いのない隔たり、白昼の太陽
あなたは月、そして月光の中の
砂の上の泡、火のついた苦しみ
あなたは雲の約束、濡れた路地
‥そして空っぽの枕

Arrange and direction:
Federico Luna, Cacho Duvanced

Musicians:
Federico Luna: drums, tabla, cabaza, cantaro, triangle
Cacho Duvanced: guitar (spanish, acorstic, 12 strings), acordion, keyboards and chorus
Juaquin “Mappet” Trinidad: bass
Rafael Noriega: Piano
Carlos Tovar (Popis): cajon peruano, congas and bongos
Jorge Christians: tenor and soprano sax

Recording and mixdown
Edgar Arrellin, Federico Luna, Cacho Duvanced

Photography:
Kazuhiro Nakayama, Fausto Arrellin

Design:
Fausto Arrellin

Production:
Modesto Lopez

私が中南米をほっつき歩くようになって、もうかなリになる。
最初は、フォルクローレ好きのアマチュア学生として、さらに放浪そのものを楽しむパンクパッカーとして。
そんな折リに出会ったふたリの音楽家が私の人生を変えてしまった。
ラテンアメリカ音楽界のリーダー的存在。パプロ・ミラネスとシルビオ・ロドリゲス。
当時、既に歌い始めてはいたが。自分が何者かもはっきり知らないモラトリアム人間だった私にパプロは「天職として歌うこと」を薦め、シルビオは私に詩集を贈って「プライドをもって前に進め」と撒をとばしたのだ。以来、私達は年の離れた仲間となった。
そして、プロの歌い手としての道を歩みはじめた私に、世界的なコンサート・ピアニストでチャイコフスキー・コンクールの審査員でもあるフランク・フェルナンデスが言葉を贈ってくれた。
「敵を作ることを恐れてはならない。なぜなら、光はその輝きのゆえに、暗い物をも引き寄せてしまうものだから」

それから、さらに数年が過ぎた。
自問自答と暗中模索の中、メキシコの大学やライブハウスで歌い、またニカラグアの灼けつくよう広場の政治集会や、キューパのしゃれたオベラハウスからチリのスラムでのフェスティパル、言うまでもな〈日本の色々な劇場や小劇場.....いろいろなところで自分を試した。
「もうそろそろいいんじゃないかね」
メキシコのナイトクラブ〈アルカーノ〉でのショウのあとでレコード会社ベンタグラマ社のモデスト・ロペス社長が声をかけてくれたのが91年のことである。モデストのプランは、私の自作曲と若手の作曲家たちの作品で、「おもしろい」アルバムを創ることだった。
ここで「そういうことなら」と、お金にもならないのに曲をこころよく提曲してくれたのが。目下売れっ子作曲家のダヴィッド・アロ、マルシアル・アレハンドロの面々で、これに旧知のキューパの吟適詩人ラミロ・グティエレスの作品とニカラグアの若い作家オフィリオ・ピコン、それから自作品などを加えてレパートリーを決めることにして、新しくいくつかの曲を書いた。
そんな訳でこのアルバムは、モデスト自身のプロデュースで、92年のスモッグ立ち込める早春のメキシコ市で録音されたのだが、2人のアレンジャーの片方フェデリコ・ルナはずっとボレロの大御所アルマンド・マンサネーロと組んできた職人肌で、もう一人的カチョ・デュヴァンセはアルゼンチン出身のロック志向の才人肌のシンガーソングライター。この二人に加えて。元フォルクロリスタスのカルロス・トバールやらタニア・リベルタの録音などもこなしているチリスティアンスなど、メキンコの最高のミュージシャンたちが顔を揃えてくれた。
とはいえ、とうからそれは大資本による売れ線狙いのアルバムではないから、編曲と収録はみんなで喧嘩したり議論したり、突飛な事まで試したリという、なかなかに賑やかでお祭り騒ぎみたいな代物になったのは言うまでもない。
もちろんこれは完成されたアルバムでもなんでもなくて、私という発展途上の歌い手が、通リ道である1992年のメキシコで刻んだものに過ぎない。 いみじくも、シルビオ・ロドリゲスが言ってくれたように、道はこれからで「働き続けるのが何より肝心」なのだ。

①そんなふうに人は生きる
マルシアルが、OTI (イベロアメリカTV機構) フェスティパルでグランプリをとるまさにその直前に、メキシコを襲った85年の大震災の惨禍の、その瓦礫の中でそれでも生きて行かねばならない人々のために捧げた曲。私はこの歌を、経済封鎖や天災に苦しむキューパやニカラグアの民衆に捧げる。

②アクアマリン
アクアマリンは最近よく宝石店で見かける、美しく透き通った水色の石のこと。 もっとも、メキシコ・チアパス州出身の老詩人、ハイメ・サビーネスのこの詩は、ほとんど言葉遊びに近いものがあるが、不思議な美しさに溢れている。
作曲のダヴィッド・アロはアイドル歌謡も含めて商業ベースのヒット曲もたくさん書いているが、彼の才能の本質的な面はこういうところにある。

③あなたのために
メキンコの大御所歌手オスカル・チャベスの往年の超ヒット曲、の日本語ヴァージョン。 モデストと私がオフィスで選曲しているときに、ふらりとオスカルが現れて「何を歌うのさ」「メキシコの若い作曲家の作品を取り上げるの」「ふん、では、俺の作品では？」 ジョークのつもりで「〈あなたのために〉を日本語で歌うのよ』と言ったら、社長にウケて、ほんとにやることになってしまった。日本語詞は、そのあとハパナで

書いたもので。オリジナルの翻訳ではない。
「白い石畳や並木」は私のこよなく愛するプラド通りのこと。

④ダヴィッドのサックス
　ニカラグア人は３人に1人が詩人だといわれるが、オフィリオもすばらしく繊細な言語感覚をもつ詩人である。 曲は私が詩を見てすぐにひらめいたもので、サックス奏者がものすごく張り切ったのは言うまでもない。リズムはグァヒーラ。
⑤少女と樹
メキンコ東部のユカタン地方から、キューバ、中米に分布するトローパと呼ばれる叙情歌曲から。 この曲も大変広く分布しているもののひとつだ。 何をやらせても器用なカチョが、大変ロマンティックに伝統的なトローパの唱法をまねて（とはいえ、アルゼンチンぽいのだが）コーラスしてくれている。
⑥波の泡
これもオフィリオの詩。私にしては珍しく、「いかにも夏向き」のパンチの効いた曲に仕上がった。

⑦夜警
詩がシルピオ・ロドリゲス。たまたま、マーク・シャガールの美術展に足を運んだときに、闇の中で踊る男女や鶏の幻想的な絵の前で閃いたのが、この、私が初めて作曲したといえるメロディなのだが、残念なことにラテン世界では詩の美しさのほうが話題になることが圧倒的に多いのは仕方がないかもしれない。

⑧はっきりとは知らないけれどこれも②と同じくハイメ・サビーネスとダヴィッド・アロのコンピの作品。アルゼンチンのレオン・ヒエコとのコンサート・ツアーでも人気のあった曲で広く歌われるにふさわしい佳曲である。ここでは。パーカッションのフェデリコがインドのタブラやり水甕やらを持ち出してきて、大いに張り切っている。

⑨カリート
前述のレオン・ヒエコとアントニオ・タラゴー=ロスのアルゼンチン、リトラール地方の民謡チャマメのリズムをもつ名曲。元々、ある演劇作品のために作られたが、劇は結局上演されず、曲だけが一人歩きして有名になった。この収録のとき。「チャマメにはアコーデオンを入れなければならない」と、カチョが、突然、愛国心を発揮しはじめ。ほんとにどこからか骨董品的なアコーデオンを捜し出してきた。
どこかで見たような記憶があると思ったらレコード会社の社長室の飾りものになっていたやつであった。

⑩鳥の歌
バルセロナ・オリンピックの閉会式で歌われてすっかり有名になる前から、私のレパートリーだった。詞はカタルニア語。言うまでもなく、世界的チェロ奏者パウ・カサルス　(パプロ・カザルス)　の演奏も有名だが、ここではもっと民謡的に散っている。 わざとらしくチェロの音が絡んでいるのは、無論、カザルスへの敬意を込めてのことだ。

⑪わたし
これは、オフィリオ・ピコンの作飼作曲作品。彼に、曲をひとつ頂戴と頼んだら、くれたのがこれだった。つまり、私はこの詞のイメージなのだろうか。

⑫ただあなたがいるだけで
キューパ中部オルギン市出身／在住の吟遊詩人がラミーロである。　私達は87年にサンティアゴで知り合ってすっかり意気投合してしまった。 この限りなくロマンテイックな作品は、パプロ・ミラネスの演唱で、キューバのコンクールでグランプリを獲得したものである。

1992．11．11　八木啓代